



# 朝風

平成 25 年度  
9 月 号 ③  
大 仙 市 立  
大 曲 南 中 学 校

## 「大事なことは手間がかかってめんどくさい」 by 宮崎 駿

有名なノンフィクション作家の柳田邦男氏が、先日の魁新聞のコラムで、ケータイ・ネットと子どもの人格形成について述べていました。今ここにある危機を共有化するための参考資料として紹介いたします。

魁新聞朝刊 識者コラム「現論」(柳田邦男)より抜粋

- ケータイ・ネットの広まりが子どもの人格形成に破壊的な役割を果たしてきたが、スマホや新しいコミュニケーション(アプリ)のために一段と深刻化してきた。ネットによる危機が新段階に入っている。
- 厚生労働省研究班による中高生対象の全国調査(2012年10月～2013年3月)
  - ・「ネットにひたっている時間が5時間を超える」
    - 中学生 9.0%      高校生 14.4%
    - ・「病的な使用\*」      中高生 8.1%
  - \*やめようとおもってもやめられない、やめようとする和不機嫌になったりいらしたりする、ネットのために人間関係や学校のことを台無しにしたことがあるなどの症状。麻薬やアルコール依存症と酷似している。
- 兵庫県立大環境人間学部による姫路市内の中学生を対象とした調査(2013年6月)
  - ・「面識のない人とメールなどをしたことがある中学生」
    - ケータイ所有だと 40.2%      スマホ所有者だと 58.1%      \*これは驚くべき数字である。
- LINE(ライン 無料のアプリ)は、相手が送信文を読むと「既読」の文字が表示される。すぐに返事をしないと、怒られる仲間外れにされるという不安に駆られる。深夜でもやりとりをしないわけにはいなくなる。誰かがいじめの標的になるとその1人を交信仲間からはずして、仲間内で悪口の言葉をやりとりする。LINEは、第三者の監視の目を入れにくいシステムになっているのでいじめや犯罪の新しい温床になっている。
- 10年ほど前から、精神医学者の見解やネットのからむ犯罪の分析から、ケータイ・ネット社会の負の側面として、次のことを指摘してきた。
  - ① 子どもに相手の表情から心を読み取るコミュニケーション力が育たない。
  - ② 子どもの言語表現力やきめ細かな感性の発達が阻害される。
  - ③ 睡眠不足、ネット疲れで学習能力が低下する。
  - ④ 子どもが刺激的な映像や情報以外に興味をもたなくなる。
  - ⑤ 考え方も行動も自己中心的になり、他者をあやつろうとする傾向が強くなる。
  - ⑥ 相手がどんなに傷ついても自分は痛みを感じない。
- これらの問題が、スマホの登場以降いちだんと深刻化してきた。今や幼児におもちゃ代わりにスマホやタブレット端末を与える親が増えているのを見ると、ぞっとする。
- 人間は便利で楽しいものに弱い。しかし、宮崎駿氏が言うように「大事なことは手間がかかってめんどくさい」のだ。面倒なことを自分で成し遂げてこそ、達成感や生きる力が湧いてくる。
- 全国の小中高は保護者と一体となって「ノーメディアデー」を週に1日+年に1回1週間実践して、ライフスタイルを見直すべきであろう。



### 大崎市PTA連合会は、ノーメディアデーに取り組んでいます!